

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	53	人
② 算数	53	人
③ 理科	53	人

5 留意事項

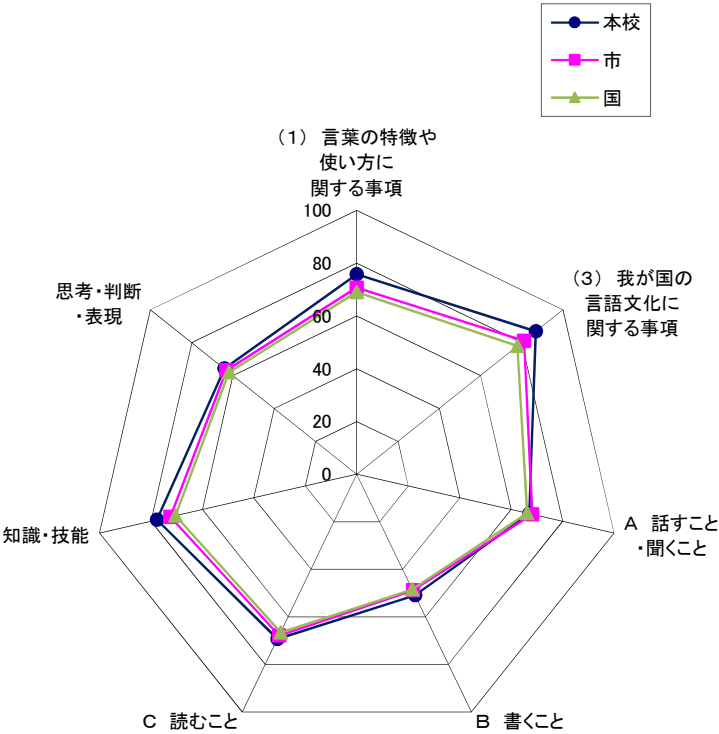
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.8	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	86.8	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	67.0	68.2	66.2
	B 書くこと	50.9	48.9	48.5
	C 読むこと	69.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	77.7	72.5	70.5
	思考・判断・表現	64.2	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

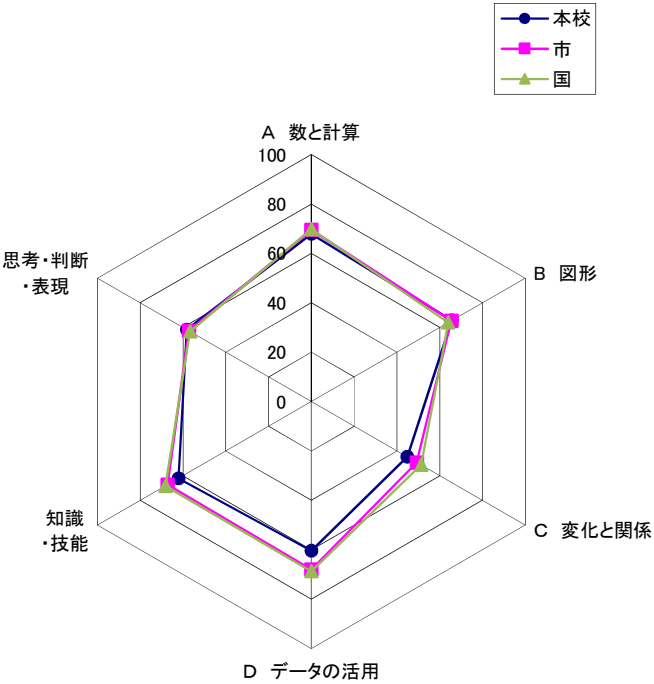
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は75.8%で、国の平均より高い。 ○話し言葉と書き言葉の違いを理解する設問の正答率が90.6%で国の平均より5.1ポイント高い。 ●漢字の問題の正答率は低くはないが、無回答率が高い問題もある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・語彙力を高めるために、新出語を使って短文作りをしたり、語彙コーナーを教室に掲示したりする。 ・話合いのスキルを向上させるために、各教科で話合いを積み重ねる。 ・小テストやAIDリルを活用し、正しい漢字が習得できるように継続的に取り組む。
(3) 我が国の言語文化に に関する事項	平均正答率は86.8%で、国の平均より高い。 ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して文章を書く設問の正答率は、86.8%で、国の平均より8.9ポイント低い。 ●選択問題だが、無回答の児童もいた。最終問題だったので、時間が足りなかったのではないかと考えられる。時間を意識しながら取り組めるようにしたい。	・引き続き、書く活動を適切に取り入れていきたい。自分の意見を書き、友達と交流して、様々な考えや書き方を知り、振り返るという学習の中で、書く力を高めていけるよう指導する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は67%で、国の平均とほぼ同じぐらいである。 ○互いの立場や意図を明確にしながら話し合い、自分の考えをまとめる問題の正答率は56.6%で、国の平均より8.9ポイント高い。 ●話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題の正答率は77.4%で、国の平均より7.3ポイント低い。	・スピーチでは、聞き手に分かりやすい構成を考えたり、聞き手が話し手に質問したりする機会を増やし、話し手や聞き手がそれぞれ相手を意識してスピーチをしたり、聞いたりできるように指導する。 ・児童が話す、聞く力の必要性を実感できるような授業を実践し、「話せるようになりたい、話を聞き取りたい。」という意欲を高めると共に、日常生活から話すこと・聞くことの大切さについて伝えていく。
B 書くこと	平均正答率は50.9%で、国の平均よりやや高い。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える設問の正答率は66%で、国の平均より6.8ポイント高い。 ●文章に対する感想や意見を伝え合い、よいところを見付ける問題の正答率は35.8%で、国平均より1.9ポイント低い。目的に合った文章を書くことに課題がある。	・文章を書くときに、文章全体の構成や展開を考え、自分の主張が明確に伝わるように構成メモを作成し、文章全体を段落ごとに捉えられるように指導する。 ・相手を説得させる文章を書くときに、読み手や目的を明確にしながら、必要のある事柄を選んだり、書く内容を工夫したりすることができるように指導する。
C 読むこと	平均正答率は69.3%で、国の平均よりやや高い。 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題の正答率は77.4%で、国の平均より9ポイント高い。 ●表現の効果を考える問題の正答率は54.7%で、国の平均より4.5ポイント低い。一つ一つの叙述に着目して読むことが課題である。	・文章を読むときに、言葉の意味や表現に着目させ、書き手にどのような意図があるか、またどのような効果があるかについて考えるように指導することで読解力を高めていきたい。 ・読書を奨励することで、様々な読み物に興味をもつよう働きかけを行う。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.9	69.5	69.8
	B 図形	65.6	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	44.8	49.3	51.3
	D データの活用	60.4	68.0	68.7
観点	知識・技能	62.1	67.3	68.2
	思考・判断・表現	58.2	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

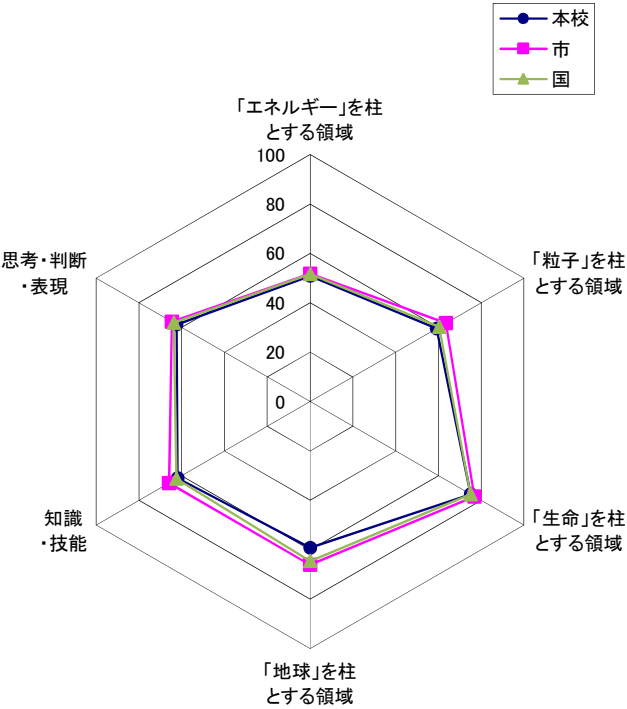
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は67.9%で、国の平均より低い。 ○被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする問題の正答率は94.3%で、全国平均より1.9ポイント上回った。 ●二つの数の最小公倍数を求める設問の正答率は66%で、国の平均より6.2ポイント低い。 ●表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求める設問の正答率は、64.2%で、国の平均より11.1ポイント低い。	・基本的な四則計算はできるが、示された計算の仕方を解釈して、さらに計算したり計算の仕方を記述したりする問題に対しては課題がある。文章題などを活用し、立式や数字の表す意味を考える学習を取り入れ、課題解決の力の定着を図る。 ・倍数と公倍数、約数と公約数を求める問題にも、積極的に取り組ませて、課題解決の定着を図る。
B 図形	平均正答率は65.6%で、国の平均よりやや高い。 ○示された作図の手順をもとに、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する設問の正答率は64.2%で、国の平均より6.6ポイント高い。 ●図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解する設問の正答率は64.2%で、国の平均より2.3ポイント低い。	・正三角形や正方形の意味や性質などの基本的な知識の定着をさらに図る。 ・自分の考えを言葉や式、図を使って説明する学習を多く設定し、記述をして説明する力を育てるようにする。 ・箱を実際に開いてみたり、図形の動画を見たりするなどの授業を展開し、視覚的に図形の特徴を理解できるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は44.8%で、国の平均より低い。 ●「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて未知の数量の求め方と答えを記述する設問」と、「示された場面のように数量が変わっても割合は変わらないことを理解している設問」の正答率が低かった。	・割合や単位量当たりの大きさの学習では、立式はできても商が何を表すのか理解が曖昧になってしまう児童も多いので、立式する前に数直線に表す活動を意図的に取り入れたり、図に表す活動を取り入れたり、単位を意識させたりして、問題や商の意味を確実に読み取る力を身に付けられるよう、計画的・継続的に指導を行っていく。
D データの活用	平均正答率は60.4%で、国の平均より低い。 ●「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求める問題」と「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題」の正答率が低かった。	・グラフや表などからデータを読み取ることなど基本的な知識の定着に向けた学習を継続する。 ・整理したデータは何を示しているのか、集めたデータから分かることは何かなど、話し合う学習を通して問題場面の背景を理解し、情報を整理する力を身に付けさせるようにする。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	50.9	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	59.2	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	75.1	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	59.2	66.1	64.6
観点	知識・技能	61.9	65.9	62.5
	思考・判断・表現	62.4	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は50.9%で国の平均とほぼ同じである。 ○鏡ではね返した日光を缶に当て続けて温度の変化を見る実験について、実験の結果の中から適切な情報を選ぶ設問では、正答率が79.2%と国の平均より4.8ポイント高い。 ●実験で得た結果を基に自分の考えを記述する設問では、正答率が20.8%と国の平均より14.3ポイント低い。	・授業の中で、実験を行う際には、問題を解決するためにどのような実験を行うとよいのか考えさせたり、実験の方法を検討して改善する場面を意図的に設定したりして、児童の思考力・判断力を育成する。 ・実験で得た結果について自分の考えをもち、その内容を記述させる場面を多く設定するなどして、児童の表現力を育成する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は59.2%で国の平均より低い。 ○実験器具の一つであるメスシリンダーの正しい扱い方を問う設問では、正答率が77.4%と国の平均より7.4ポイント高い。 ○凍った水溶液について、試してみたいことを基に、自分の考えを書く設問では、正答率が54.7%と国の平均より15.4ポイント高い。 ●自分の予想と実験の結果から考察をする設問では、正答率は56.6%で、国の平均より6.2ポイント低い。	・実験器具を正しく扱えるように、実験前に全体で確認するなどして定着を図る。 ・実験や観察を行う際には、「問題」「予想」「実験(観察)方法の検討」「結果」「考察」の流れを基に、児童が自分の考えをもちながら主体的に実験や観察が行えるよう指導を行っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は75.1%で国の平均と同じである。 ○幾つかの観察の視点から、誰の観察カードか選ぶ設問では、正答率が94.3%で国の平均より1.4ポイント高い。 ○昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫かどうかを説明するための視点を選ぶ設問では、正答率が77.4%で、国の平均より4.3ポイント高い。 ●自分の観察記録と新たに追加された他者の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く設問では、正答率が64.2%で国の平均より3.3ポイント低い。	・身の回りの生物に関心をもてるよう、生物を探したり育てたりする経験を多く取り入れ、それらの様子や周辺環境、成長の過程や体のつくりに着目させたりして知識の定着を図る。 ・観察カードを書く際には、観察する視点を示したり、観察した結果を考察したりする場面を意図的に設定し、児童の思考力・判断力・表現力を育成する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は59.2%で国の平均より低い。 ○天気と気温の変化について、グラフから分かることを問う設問では、正答率は50.9%と国の平均より5.4ポイント上回った。 ●鉄棒に付着していた水滴や氷の粒は何が変化したものかを問う設問では、正答率は39.6%で国の平均より22.4ポイント下回った。	・天気や自然界の水の様子など、日常の様子に関心がもてるように、日頃から理科の学習と日常生活を結び付けた問題を提示するなど、学習活動を工夫する。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「規則正しい生活を送っている」と肯定的回答した児童の割合が8割を超えており、家庭での生活習慣が身につけている様子が見られた。今後も、家庭で計画的に学習する習慣・規則正しい生活習慣を意識して継続できるように指導にあたる。

○「自分には、よいところがあると思う」と肯定的回答をした児童の割合は、90.7%であった。また、「先生は良いところを認めてくれている」と回答した児童の割合は、96.3%であった。自己肯定感が高い児童が多いことがうかがえる。今後も学校生活の中で、児童のよさを認め、伸ばしていく指導を心掛けたい。

○国語について「大切」「内容がよく分かる」「将来役立つ」と肯定的回答をした児童の割合が多く、国語の学習に前向きに取り組んでいることがわかる。今後も、児童が「分かる」授業、生活の中で活かすことができる授業づくりを行っていく。

○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と回答した児童の割合は、81.4%であった。また、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」でも90.7%が肯定的回答をした。何事にも前向きに取り組む様子がうかがえる。学習だけでなく、特別活動・学校行事などの様々な場面で、自分から進んで挑戦できるよう、指導を継続していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、読書しますか」の質問に「10分より少ない・全くしない」と回答した児童の割合が53.7%で、本を読む習慣が付いておらず、読書への関心が低いことが分かる。学級文庫や巡回図書を活用、図書委員会による読み聞かせなどを行い、読書の魅力や大切さを児童に伝えながら、読書への興味・関心の向上に繋げたい。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と肯定的回答をした児童の割合がやや低い傾向が見られた。今後、様々な話し合い活動において、色々な考え方に触れ、良さや楽しさが感じ取れるよう、自分と異なる意見に耳を傾け、じっくり考えられる場や時間を設定していきたい。

宇都宮市立白沢小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実・言語活動の質的向上	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現の仕方を指導している。	「登場人物の行動や気持ちを叙述を基に捉える設問」や「人物像や物語の全体像を具体的に想像する設問」では、国の平均を上回った。 表現の効果を考える問題や文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題では、課題が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語、算数、理科の3教科で「思考・判断・表現」の問題で課題が見られる。	・語彙力を強化するための読書活動の充実 ・対話的な授業展開	全校を通して「奨励図書」を示し、読書記録のやり方を改善していくことで、読書内容の充実と読書量の増加を促し、語彙力の強化を図れるようにする。また、継続して主体的・対話的な授業を実践することで、自分の考えをしっかりともち、自分の言葉で話すことができるようにする。